

みえ発!

災害ボラパック



「みえ発！災害ボラパック」制作プロジェクト編

このパンフレットを手にとってくれたあなたへ

大災害が起こり、ボランティア活動が始まったという報道を見聞きした時、あなたは何を思いますか？

- 少しでも被災者の力になりたい！
- 災害現場へボランティア活動に行きたい！
- でも、何をどうすればいいのだろう？
- …行ったことのない場所だ
- …1人では心配、誰か一緒に行く人はいないかな？
- …往復の交通手段は？
- …お金もかかるよね…
- …なんて、不安は膨らむ一方です。

そこで、
…友人や仲間に声を掛けてみんなで現地に行こう！
…こんな時、災害現場行きのパックツアーがあれば便利でいいのに…
と思いついたあなたのためにこそ、このパンフレットは生まれました。
ひとりでは小さな力も、合わせれば出来ないことなんてありません。

パックツアーがないのなら、作っちゃえばいいのです！
自分たちで！

このパンフレットには、
災害時に「三重県ボランティア情報センター」が企画・実施した
ボランティアパック(以下ボラパックと表記)から搾り出したノウハウが、
ぎっしりと詰まっています。
災害なんて、そんなに頻繁に起きるものではありません。
でも、もし不幸にして起こった時、このパンフレットが
あなたやあなたの仲間の力を最大限に引き出すきっかけとなれば、と願い作成しました。

まずは、試乗してみてください。

CONTENTS

●STEP1	
バスを出そう！…に至るまで	01
●STEP2	
事務局立ち上げ！…やることいろいろリストアップ	04
●STEP3	
事前準備！ボラパック・コーディネート	07
●STEP4	
いよいよ当日！…集合～受付～現地まで	10
●STEP5	
作業終了！…活動～終了～帰路・引継ぎまで	12
●STEP6	
活動の終わり時	14
●STEP7	
参加者の声から…	15
●被災地からのメッセージ・あとがき	17

STEP 1

バスを出そう!

…に至るまで

物語の始まりは…

平成16年7月21日 午後7時

アスト津の『みえ市民活動ボランティアセンター』には、**防災NPOの面々や三重県、社会福祉協議会、日赤の担当者など約20名が集まって**※1会議が開催されていた。今月初めに起こった新潟水害、それに続く福井水害など

被災地への支援活動をどのように展開していくか?

これが会議のテーマだった。



「新潟だけでなく福井でも水害が起きました。新潟はかなり遠方でもあり**直接的な支援は困難でした**※2が、福井であれば県北部から車で2時間。三重県内からの支援をどうすべきか、みんなで考えていきましょう」



「現地はどうなっているの？
ボランティア活動は？」



「家に流れ込んだ土砂を出したり掃除したりする活動が始まっています。県のボランティアセンターができたほか、各被災地にもセンターができつつあるようです」



「**義援金**※3の窓口はあるけど、**ボランティア活動支援金**の話は聞かないね」



「**物資**※4も、タオルなどの募集はあるけど、基本的には持ってきた人が持って帰ってほしい、というような案内も流れていますし、まだまだ混乱しているようです」

↓次ページへ続く

※1

「三重県ボランティア情報センター」という日頃からのネットワークが活かされました。(→巻末参照)

※2

義援金やボランティア活動支援金を募集するという活動が主でした。

※3

義援金とボランティア活動支援金

災害発生時、日本赤十字社と共同募金会、NHKなどが呼びかける“被災者の復旧・復興を支援するため”の募金が「義援金」です。この義援金がボランティア活動に使われることは通常ありません。そこで、ボランティア活動に必要なお金(センターの運営や資機材の購入など)を募集するのが「ボランティア活動支援金」です。活動の規模や内容にもよりますが、数千人のボランティアが活動するためには数百万円の経費が必要になります。三重県のボラパックでもなるべく安価でボランティアが現地に行けるように、経費の半額を皆さんからの支援金でまかっていました。

※4

物資の支援について

せっかくの救援物資が被災地では「第2の災害」といわれてしまうこともあります。「開けるまで中身が不明」「古い下着は被災者でも使わない」「期限切れの薬」「サイズがバラバラの防寒具」など、物資を分けるだけで大変な労力になってしまうのです。物資を送るなら「サイズを揃えて」「現地の窓口に確認して」「ダンボールの外に中身を明記して」送りましょう。

STEP 1 バスを出そう! …に至るまで

話し合いは…


■現地に支援に行く? 行くのなら…


情報交換、提案、そして議論。さまざまな懸念、思いがテーブルの上を飛び交いました





 「今日の参加者の中で現地に支援に行くつもりなのは？」


 「**私たちのメンバーが明日現地入り**※5するので、その状況を聞いてから考えようっていつてる」


 「私たちは23日に名古屋のボランティア団体のバスで行きますが、地元から出ればもっと行きやすいですね」

 「みんなで支援のバスを仕立てるといのは、どうでしょう？」

 「個人でいったら1万円以上かかるだろうし、**みんなでまとめていけばもっと安く支援にいける**※6ね」


 「**ボランティア活動のことや現地のことを知っているメンバー**※7が同乗していたら、初めての人も安心だし」

 「でも、日帰りなら現地での活動は3、4時間しかない。それに受付とかバスの段取りとかにも手間がかかりそうだけど、誰がするの? それに費用はどうするの?」

 「たしかに、呼びかけもどうするか考えないといけないしね」

 「情報発信は、インターネットのホームページ(HP)やマスコミへのPRでできると思う」

 「では、**各自で仕立てるバスの情報をインターネットで共有して、そこに相乗りする**※8っていう形では？」

 「それはそれで進めていけばいいと思うけど…」

※5

先遣隊(せんけんたい)と先発隊(せんぱつたい)

よく似た言葉ですが、災害現場におけるボランティア活動の充実度はここで決まります。

「先遣隊」とは、災害現場でのボランティア活動が想定される場合、迅速に現地へ入り、被災地やボランティアセンターの状況を把握するとともに、現地ボランティアセンターのスタッフとの信頼関係の醸成(必要なら助言も)、活動期間の見通しや規模の把握、道路状況や利用可能な施設などの情報収集を行う数名のグループのことで、支援方針を決める偵察隊とも言えます。

一方「先発隊」とは、当日または前日、バスの到着に先立ち現地入りし、ニーズ(作業)の確保、必要な班編成数などの現地最新情報を到着前のボラパック・コーディネーターに伝え、受入れ準備をするスタッフのことで、現地ボランティアセンターとの相互信頼関係がまだ充分でない場合は特に有効です。不安いっぱいでも現地に着いたバスを信頼できる仲間が迎えてくれたら、どんなに心強いことでしょう。

※6

ボラパックのメリット

みんなでバスを仕立てれば安価になるし、行き帰りの移動を心配しなくていい。だから現地でも精一杯活動できます。これが一番のメリットですが、それ以外にも「同じ思いの仲間と出会える」「活動に詳しいコーディネーターが案内してくれる」など、経験がない人でも参加しやすいのがパックの長所です。

※7

ボラパック・コーディネーターの役割→P7参照

※8

三重県ボランティア情報センターでは、各地から出るボラパックの情報を一つのHPに集約し、日時・行先予定・実施団体(問合せ先)などを掲載しました。方法は一つではないので、メンバーでベストな方法を考えましょう。



「三重から福井まで45人乗りバスだと
往復だいたい9万円台^{※9}だと思います」



「その費用をどこから出すの？」



「参加費として一人2,000円^{※10}出してもらえば
なんとかなるじゃん」



「それでも参加者がいなかったら？」

一同「う～ん…」

お金の出し方や裏方の担い手などについて結論を出せず、
それぞれ煮え切らない意見を出し合う一同。

——そして2時間。

バスを仕立てるのはもうやめようか、という雰囲気漂いはじめたとき…



「いま福井では被災で苦しんでいるひとがたくさんいるんだ！そして僕たちは自分たちにできることを思いついた。それなら、なんとかして実現しようよ。被災者のためにできることは何だってやるのが災害時のボランティア活動ってもんでしょ!!」



「そうですね。どうでしょう？
今日参加のメンバーで『自分は参加できなくてもお金だけでも出します』という人はどのくらいいますか？」

(一同挙手) ^{※11}



「な～んだ。だったら決まりですね。
ここに20人いるから、一人5千円ずつ出せばバスを1台チャーターできます。参加者がいなかったら1回目でやめたらいいし、参加者がいれば続けましょう!!」

(一同) 「異議なし!!」

※9

バス代

バス会社や距離により違います。バス会社に聞いてみたらすぐわかりますので、気軽に聞いてみてください。これもボラパックを企画する第一歩です。

※10

バス代の自己負担

自発的参加を促すうえでも、少しでも費用を負担して頂く方がよいでしょう。台風21号ボラパックの場合、半額(1,000円)を自己負担とし、残りは皆さんからの支援金でまかないました。また、学生割引など若者が参加しやすい工夫をしてもよいと思います。

※11

一番大切なのは、支援したいという気持ちを確認しあうことです。

というわけで…

すっきりした表情になった一同は、みえ市民活動ボランティアセンター内にボラパック事務局を開設することを決め、それぞれの役割分担についてさらに打ち合わせをしました。そして、翌日の昼にはバスを確保し、参加者募集の情報発信をはじめました…

STEP2

事務局立ち上げ!

…やることいろいろリストアップ

■ボラパック発進のためのベースづくり

バスを出そう!と決めたら、次は何からやればいい?

バスが出るまでのいろいろな準備作業をあげてみました。たくさんの事柄が同時進行で動きま
すから、うまく役割分担して、それをチェックできる仕組みをつくっていく必要があります。

1

運営会議の開催

【内容】

被災地への支援を話し合う会議を行います。今できる支援が何かを把握するため、互いの持っている情報を交換します。その上で、ボランティアを被災地へ送る仕組み(ボラパック)をどうやって作っていくかを参加者で合意形成をします。

【決めるべきこと】

- 名称
- 代表者(→2)
- 活動期間
- 活動内容

【用意するもの】

- 会議室
- 出席者名簿用紙
(団体名、名前、連絡先)
- 議事録記録係

2

代表者の決定

【内容】

事務局の代表者を決めます。このことにより、対外的な対応であるとか、責任の所在を明確にします。代表者は、一歩下って判断できる状態を維持することが大切です。

【決めるべきこと】

- 代表者の責任の範囲

●まずは事務局が外部から見えるように形を作っていきます

3

事務局の体制づくり

その1 組織づくり(人)

【内容】

作業を並行して行うため、いくつかの役割を区切って事務処理を進めます。そのために、各役割を具体化し、役割を担うスタッフを明確にします。

【決めるべきこと】

- 必要な役割の設定

【役割内容】

- 現地との窓口・情報収集(→4A)
- 資金の管理(→4B)
- 物資の収集・企業協賛(→4B、4C)
- ボラパックの企画(→4C)
- ホームページの管理等情報発信(→4D)
- 電話の対応(→4E)

その2 事務所づくり(もの)

【内容】

ボラパック事務局を行うための資機材を準備します。情報を整理・共有するホワイトボードや記録をつける様式、連絡用の紙などが必要です。また、行政の財産を使用する場合、どのように使用できるのかについて普段から意見交換を行うことが有効です。

【用意する資機材】

- 事務局設置場所
- ホワイトボード、同マーカー
- コンパネボード(カベでもOK)
- 模造紙
- 椅子、机
- コピー機
- A4用紙
- ガムテープ
- 文具(鉛筆、ボールペン、
ホッチキス、ホッチキスの針等)
- 筆記用具等管理用のボックス
- ノート
- ゴミ袋
- パソコン、プリンター、トナー
- デジカメ
- インターネット接続環境
- ホームページ(HP)
- メールアドレス
- 受付のための電話回線と
電話・ファクス機
- 現地で便利な資機材
(トランシーバーやスタッフ用
携帯電話、現場作業で使うと
便利な高圧洗浄機など→P7参照)

4A 現地との連携

【内容】

現地ボランティアセンターに連絡をとり、自分たちがしようとしている支援内容を伝えます。

現地ボランティアセンターの連絡先は頻りに聞かれる事項なので、住所、電話、FAX、代表者、支援金口座番号等を聞いて、地図に記録します。また、現地ボランティアセンターの目印になる施設を聞いておきます。

【決めるべきこと】

現地との窓口になるスタッフ(先遣隊を兼務するとイメージを持ちやすい)

【用意するもの】

- ホワイトボード
- 被災地の地図
- 現地の最新情報
(センターの場所、連絡先、現地の状況、交通規制、活動内容など)

先遣隊(現地情報)

【内容】

被災地へ実際に出向いて現地の画像や情報を収集します。また、現地ボランティアセンターの位置や受け入れ体制などを把握すると共に、スタッフとの顔つなぎも大切な役目です。

【決めるべきこと】

先遣隊スタッフ

【用意するもの】

- デジカメ
- 移動手段(自動車)
- 名刺
- 現地周辺の道路地図

ボランティア活動保険

【内容】

社会福祉協議会に確認し、ボラパック参加者が必ず加入できるよう準備します。最近の事例では現地が負担することもありますので、現地ボランティアセンターに確認しておく必要があります。

【決めるべきこと】

受付をどこで行うか?
(パック受付時か現地か?)

- 費用の取り扱い
- 名簿の取り扱い

【用意するもの】

ボランティア活動保険の説明書

4B 資金管理 ・資金集め

【内容】

ボランティア活動支援金を集めるためのPRや渉外業務を行います。また、お金を扱う口座を開設し、災害が収束したときに収支を公開できるように管理します。

【決めるべきこと】

資金管理スタッフ

口座の名義

【用意するもの】

- 領収書
- 口座(2つ)

【注意点】

- ※(1)ボランティア活動支援金受付用
(2)運営資金の管理用の2つの口座を用意すると便利
- ※団体名義で口座を開設する場合、規約などがあるため、各金融機関の窓口相談を
- ※郵便貯金口座なら、郵便振替が利用できるため、寄付をいただいた方の住所などがわかることができるのがメリット
(お礼状を出す時などに便利)

point culum

ひとりひとりの安心をささえる ボランティア活動保険について

ボランティア活動保険は、ボランティア活動中における様々な事故からボランティアの方々を補償する保険です。防災・災害ボランティア活動も補償の対象となります。また、天災(地震等)による事故も補償の対象となります。(※右記参照)

補償期間は、4月1日午前0時(中途加入の場合は申込み手続き完了後の翌日)から翌年3月31日午後12時までの1年間です。加入申込手続き方法等については、もよりの社会福祉協議会にておたずねください。

大規模災害においては、被災地の社会福祉協議会(災害ボランティアセンター)における現地での加入もできますが、現地受付での混乱をさげ、現地の負担を軽減するためにも、お住まいの近くの社会福祉協議会で事前に入的手続きをしていただくと、被災地への往復途上のケガも補償されますのでオススメです。

※「基本タイプ」＝ボランティア活動中の傷害事故と賠償事故を補償するタイプですが、天災(地震・噴火・津波)によるケガは補償されません。(熱中症・台風などの風水害によるケガはH17年度から基本タイプの補償に含まれます)

【基本タイプ：A300円、B500円、C700円】
「天災タイプ」＝基本タイプの補償範囲だけでなく、天災(地震・噴火・津波)によるボランティア自身の傷害事故をも補償するプラン。【天災タイプ A610円、B1070円、C1540円】

*すでに基本タイプに加入している方が、天災タイプの補償も必要とする場合は、新たに天災タイプに加入することになります。

STEP2 事務局立ち上げ! …やることいろいろリストアップ

●具体的な企画を立てたら、外部へどんどん情報発信。

4c ボラパック企画

【内容】

パックを企画・運営します。日々変わる現地の状況を確認しながら臨機応変に対応する柔軟性が必要です。

【決めるべきこと】

□バスの確保

ボランティアを被災地へ運ぶバスを確保します。行楽シーズン等が重なるとバスの確保が難しくなります。また、平日のボランティアが減ることから平日の方が被災地に喜ばれます。マイクロバスを持っている団体に支援を要請するのもいい方法です。その場合運転手の確保なども必要になります。

□料金の設定

参加者にどれだけの負担を求めるかが悩むところです(仮に全額を参加者から集めても、個人がそれぞれで行くより負担は大きく軽減されるはずです)。

また、どこかからお金が出ないと支援ができないということのないようにしたいものです。

□行程、集合場所の決定

一日の行程をつくり、参加するボランティアの乗車地点を設定します。場所によっては、参加者の駐車場を確保する必要もあります。また、そのために必要となる許可申請等を行います。

4d 情報の発信(ホームページ)

【内容】

被災地の情報を集めて、情報を発信する体制を整えます。外部からの問い合わせに、一定のレベルで対応するため情報の一元化を図ります。

ホームページを立ち上げ、被災地や支援情報を集めて、参加するボランティアの視点から情報を発信します。

【決めるべきこと】

□ホームページを管理するスタッフ

□情報の収集先

【ホームページの構成】

□現地ボランティアセンターの状況
(画像があるとベター)

□ボランティア活動支援金、義援金の口座

□ボラパックのPR、参加募集

□ボランティアの持ち物等

□現地が必要としている物資情報

□現地への交通アクセス

□関連ホームページリンク集

□メッセージ

□協賛企業・個人への謝辞

4e 参加者の受付、問い合わせ対応

【内容】

参加者からボラパックへの申込み(電話、FAX、電子メール)を受け付けます。申込みを締め切った後に受け入れ先の現地ボランティアセンターへFAX等で連絡します。

【決めるべきこと】

□参加者への伝達事項

□参加基準(健康状態や年齢の制限など)

【用意するもの】

□電話受付マニュアル(想定問答集)

□受付票

(名前、郵便番号、住所、年齢、携帯電話番号、乗車予定地)

□電子メール返信ひな形

情報の発信(マスコミ)

【内容】

新聞社、テレビ、ラジオ局に情報提供を行って、ボラパックの運行等の周知を行います。

【決めるべきこと】

□マスコミ対応スタッフ

□情報提供をする内容

【用意するもの】

□マスコミ連絡先一覧表

□ボラパック説明資料

情報の発信(その他いろいろ)

【内容】

ボラパックの呼びかけチラシを作成します。また、さまざまな方法で情報を発信します。現地の状況は日々変わるので、古い情報で混乱が起きないように、情報には必ず「有効期限」を明記します。

【発信の方法】

□情報提供メーリングリスト

□チラシ

□クチコミ

point
culum

事務局はつらいよ

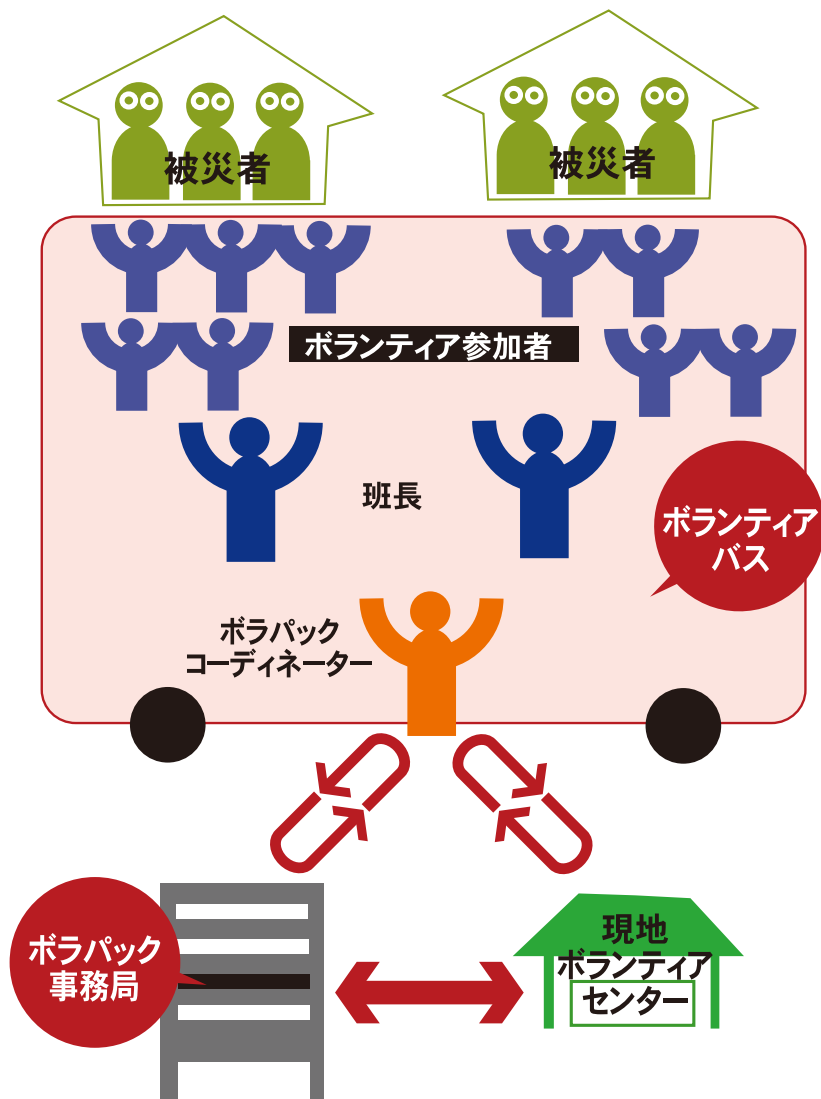
事務局を立ち上げるといろんなことがあります。マスコミからボランティア参加人数の問い合わせがあったり、明らかに主旨の違う内容の電話があったり、「何で私の住んでいる地域から(ボラパックが)でないんだ!!」とお叱りがあったり…被災地からは離れていますが、裏方スタッフも結構大変なんですよ。(参加者アンケートで「ありがとうございます」とあるのを見て、何度ホッとしたことか…)

STEP3

事前準備!

ボラパック・コーディネーター

■ボラパックの支援 構成イメージ



■事務局からボラパック・コーディネーターへ

次は、ボラパック当日に向けての準備です。事務局と、現場に引率していくボラパック・コーディネーターは、スムーズにボランティア参加者を受け入れるために、入念な準備をしていきます。

ボラパック・コーディネーター 必需品

- 当日のタイムテーブル
- 参加者名簿
- バス行程表
- ボランティア活動保険説明書
- 現地情報
- 班長心得マニュアル(→P8)
- 現地連絡リスト用紙(→P8)
- 救急箱
- 感想アンケート用紙
- あれば便利なモノ
識別の印になるもの(バンダナ、腕章)、ポリ袋、トランシーバー、メンバーと打ち解けるための小道具(携帯灰皿、お菓子など)

point culum

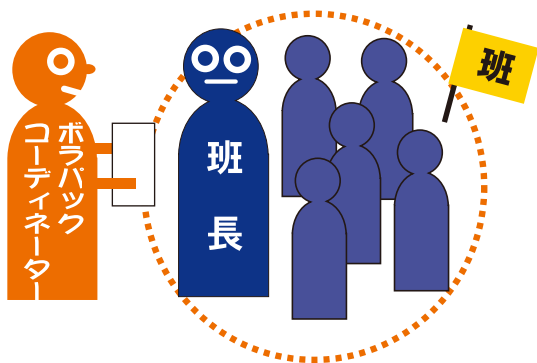
ボラパック・コーディネーターの心構え

ボラパック・コーディネーターは、参加者が全員無事に気持ちよく1日を過ごし、帰ってこれるよう、お世話をします。

- 一期一会の心を持って、来てくれたボランティアの人達に感謝、笑顔でありがとう。第一印象が大切だから。
- ぶらず(気取らず)に、らしく(謙虚)振舞おう。
- 視野を広く、冷静に、常に被災者の身になって。
- 現地の方と仲良く、郷に入らば郷に従おう。
- 常に最悪の事態(事故)を想定しよう。
- ボランティアの初心に帰ろう。



STEP3 事前準備! ボラパック・コーディネーター



■ボラパック・コーディネーターから班長へ

当日、現地では班ごとに行動してもらいます。各班の班長を決め、ボラパック・コーディネーターと班長が連絡を取り合って、状況把握ができるようにします。班長には「**班長心得**」と電話番号を記入した「**連絡リスト**」を渡します。

■現地での連絡リスト(携帯電話の番号などを車内で記入します)

○月△日	□号車	ボランティアパック	当日連絡リスト	電話番号	備考
()			ボランティアセンター	05997-3-0000	
			コーディネーター	海山 海郎 090-8457-△△△△	
			コーディネーター	宮川 清子 090-3165-□□□□	
			バックバス運転手	安全 太郎 090-1134-××××	
		班長	1班	桑名 一郎 090-2143-□□××	
			2班	四日市 二郎 090-3499-□□△△	
			3班	鈴鹿 三郎 090-8811-□□□×	
			4班	津 四郎 090-4364-□□□□	
			5班	松阪 五郎 090-3164-△△××	
			6班	伊勢 六郎 090-2477-□××□	
			7班	鳥羽 七郎 080-6452-△△△△	
			8班	尾鷲 八郎 090-5140-□□□□	
			三重県ボランティア情報センター	059-222-××××	

■班長心得マニュアル(班長に読んでもらうために渡します)

班長の仕事

- ★重要!! 班長は自分の活動に熱中せず、ボランティア活動が安全に行われるよう、班のメンバーに対して目配りや声かけを心がけてください。
- ★重要!! 「ケガをした」「被災者ともめた」「指示されたことがボランティアですべきか判断できない」など、困ったことがあったら、ボラパック・コーディネーターに相談してください。

班長の活動の流れ

(センターに着いたら・・・)

- 現地でニーズを確保する場合、班長だけで行ってください(混雑緩和のため)
- 必要資機材の借り受けは、班のメンバーといっしょに受け取りますが、貸出簿のサインは班長が行ってください。

(活動場所に到着したら・・・)

- 活動場所に着いたら、まずみんなで元気にあいさつをし、ボランティアセンターから派遣されたボランティアであることを説明してください。
- なにをやるか、依頼者の方の指示を現地で確認してください。

(活動中は・・・)

- 原則として、1時間活動したら15分休憩してください。
- 熱中症や脱水症状を予防するため、こまめに水分の補給を促してください。
- お昼休憩は適宜、1時間程度、ゆっくり取ってあげてください。
- 実働時間は原則6時間以内としますが、班のメンバーの様子や活動の進捗状況を確認しながら臨機応変に対応してください。
- 活動現場を定期的に巡回し、班のメンバーの中に顔色

の悪い人がいないか、危険な作業をしていないか、確認してください。

- 無資格で重機を動かしたりしないよう注意をしてください。

(活動中に困らないように・・・)

- 安心してゆっくり休憩できる場所を探しておいてください。
- トイレ(特に女子用)を確認しておいてください。
- 休憩中に依頼者が差入れなどをくれる場合もあります。お礼を言ってみんなにいただいでください。
(注意:ボランティアからは要求しないこと)

(終了時間になったら・・・)

- 依頼者に作業状況を確認してもらってください。
- 被災した家具の中には思い出の品もあります。捨ててもよいか、所有者にひとつひとつ確認してください。

(センターに帰ってきたら・・・)

- センターに帰ったら、班長は活動報告をしてください。
- 借りた資機材は掃除してから返却してください。
- 班のメンバー全員がバスに乗り込んだら、班長の活動は終了です。

お疲れ様でした!!

ある日のボラパック・コーディネーターの行程

時間	内容	詳細・備考
2日前	ボラパック・コーディネーター指名	事務局より電話で2日後のボラパック・コーディネーターを依頼される
前日 20:00	事務局にて打ち合わせ	事務局より引き継ぎを受ける 参加者名簿・領収書(保険)・バス行程表・マニュアルなど受け取る
当日 5:15	スタッフ集合	参加者集合時間の30分前にボラパック・コーディネーターと見送りスタッフが集合
5:30	参加者ぞくぞくと集合	駐車場への看板を出したり、懐中電灯で誘導するとわかりやすい
5:45	参加者集合時間・バス到着	運転手にあいさつ。行程の確認を行う
5:50	参加者点呼→バスに乗車	集金した人からバスに乗る。飛び入り参加者がいた場合、予備席で座れる程度なら受け入れOKとする
6:00	出発	来ない人がいた場合、携帯電話に連絡し、10分以上遅れるようなら出発
6:10	オリエンテーション	ボラパック・コーディネーターの自己紹介・趣旨説明・参加者の自己紹介・現地情報の提供・ボランティアの心得について説明
	随時休憩	必要に応じて休憩を取る。お弁当を買い忘れた人のために最後のサービスエリアでお昼を購入するよう、促す
	班分け	班長になってくれる人を見つけて班長ミーティング。その後班分け現地センターに連絡し、可能ならニーズを事前に確保する
9:30	現地ボランティアセンターに到着	ボラパック・コーディネーターだけが降車して受付・ニーズ受け取り・緊急連絡先などを確認する
9:45	現地オリエンテーション	バス車内にて現地スタッフよりオリエンテーションを受ける
10:00	資機材借り受け→出発	各班ごとに下車。資機材を借用し現場に出発！
	活動場所を巡回	各班の活動現場を巡回 声をかけて、無理をしていないか？休憩を取っているか？などを確認 1時間で15分休憩が目安。危険な作業をしていないか、安全確認をする 特に野外や工場内は注意が必要 活動中の記録を撮る。ただし、被災者の心情を損ねないよう、気配りが必要（はしゃいで写真を撮ったりしないこと）
12:00前後	昼食	ゆっくり休憩できる場所を巡回時に確認しておく
15:00	作業終了	各班をまわり作業終了をうながす
15:30	参加者がセンターに帰還	まず、資機材を返却し、うがい・手洗いの後、着替える
16:00	バスに乗車→出発	乗車時に点呼を取ること。ボラパック参加者以外の乗車は断る 現地ボランティアセンター長に挨拶し出発！
16:15	感想交流・アンケート	みんな疲れているので簡単に一人ずつ感想を聞く アンケートに記入してもらう
	随時休憩	被災地近くの特産品を買えるサービスエリアがあったら少し長めに休憩をとる
19:30	帰着	到着直前に最後のあいさつ。バス内の忘れ物に注意を促す
20:00	事務局にて活動報告	名簿・参加費・携帯電話などを返却。活動状況や現地の状況を報告
22:00	帰宅	帰宅

STEP4

いよいよ当日!

…集合～受付～現地まで

■いざ! 現地へ。ボラパッカー日の流れ

どんなに準備周到でも、当日になって突発的な出来事が起こるのは当然。無事に戻れば、IT'S OK! ボラパック・コーディネーターは、早朝から夜遅くまで、緊張が続きます。そんな1日の流れを追ってみていきましょう。

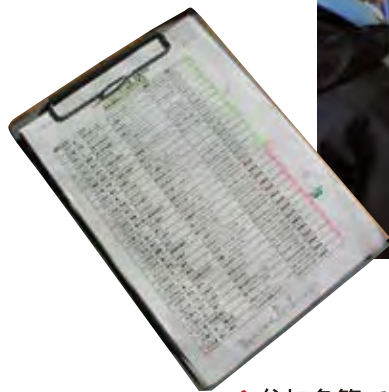
集合場所には
わかりやすい目印を!
何より時間厳守で!



↑ 手作り感たっぷりの看板

1 集合

- 乗車地点毎にスタッフ配置
- 集合場所の目印の設置
- 受付、氏名の確認など
- 参加費集金



↑ 集合場所では元気に挨拶

↑ 参加名簿で
チェック
そして集金

さあ、こんなときどうする?

- 集合場所に飛び入り参加者が!
- 参加費を忘れた!
- 集合に遅れる!

2 車中



↑ 緊張感ただよう車中…



↑ 自己紹介で和んだり、共感したり

短い時間で
参加者のコミュニケーションや
大事な説明が必要だから、
けっこう忙しいよ!

- 現地ボランティアセンターとの連絡
(最新情報、ニーズ確保・必要人数、天候確認)
- 班長の指名、業務の説明、識別方法の確認など
- ボラパック・コーディネーター自己紹介
- ボラパックの趣旨説明
- 本日の行程説明(現場状況、天候などを含む)
- ボランティア心得
- 携行品(弁当、飲み物など)の確認
- 貴重品は自己管理
- 参加者自己紹介→特技など
- 班分け(参加者の希望聞き取り)
- 現地連絡リスト作成と配布
(ボラパック・コーディネーターから班長へ→P8参照)



↑ バスでまとまって行くことで、アクセス道路の混雑を緩和したり、現地ボランティアセンターの負担を軽減できる



↑ 現地ボランティアセンターにはあらかじめ、何人行くのか連絡済みなので、スムーズ…なはず



↑ 到着。バスから降りるのは作業確定の後



↑ 名札などを受け取り準備



↑ 必要な資機材を借りて



↑ 基本的に班行動。班長がまとめるようにする

3 現地着

着いてもすぐに降ろさず、
現地との調整を！
はやる気持ちを抑えて、
和やかに推さえて。

- 参加者は必ず車内で待機させ、すぐ下車しない
- ボラパック・コーディネーターは現地受付へ名簿を提出
- ボランティア活動保険の確認とニーズ票や活動場所の地図を受け取る
- 車内で作業内容の説明を受け、各班にニーズを割りふる
- 参加者はバスを下車。各自携行品を確認し作業準備
- 資機材の借用
- 班長はボラパック・コーディネーターへ行先、作業内容、作業予定時間などを報告し出発
- ボラパック・コーディネーターは、事務局や現地ボランティアセンターとの連絡、各現場の見回りなどを行う



ボラパック・コーディネーターは
作業せずに
参加者の安全確認を



← 現場状況にもよるが、子どもの参加は被災者の心をなごませ、自力復興のきっかけになることもある

さあ、こんなときどうする？

- ボランティアが帰ってこない!
- 荷物がなくなった! ■ 蜂に刺された!
- 小学生が参加!

STEP5

作業終了!

…活動～終了～帰路・引継まで

ボラパック・コーディネーターは定期的に班長さんと連絡を取るようによし!



- 休憩は1時間に15分程度
- 自分のゴミは持ち帰る



4 活動中



↑いつもの自分よりがんばってしまう参加者



↑暑い時期には脱水症状に注意
水分と休憩をたくさん取ろう



↑ゴミは残さない。現地に迷惑をかけることを徹底



5 終了集合



←使った道具をきれいに片づけて終了

- 班長は作業報告書を現地ボランティアセンターに提出
- 参加者は資機材を洗い、返却
- 手、長靴等を洗い、うがい、消毒をして着替え、休憩をとる
- ボラパック・コーディネーターは、センター長に挨拶



無事、作業終了でもコーディネーターの仕事はまだだ…



↑うがい、消毒をする



↑終了後のオリエンテーションでクールダウン



6 車中解散

- バスに乗車
- 班長はメンバーの乗車を確認し、ボラパック・コーディネーターに報告
- 健康状態確認

いかがでしたか〜!



みんな乗ったかなあ？
名簿できっちり確認を



↑ 帰りの車中でアンケートに記入してもらう

- 感想を聞こう
- アンケート
- ボラパック・コーディネーターあいさつ



さあ、こんなときどうする？

- ビールを飲んでいいですか〜!
- 温泉に入ってかえりたい!
- 買い物したい!
- 途中でおろしてほしい!

無事到着! ほっ…

point
culum

観光に行くのもボランティア

災害が発生すると、何となく被災地の近くには遊びに行きにくい雰囲気が出てきます。「被災者の皆さんに申し訳ない」「また災害が発生するかも？」こうやって被災地だけでなく、その近隣の地域まで人が来なくなってしまいます。これは風評被害といわれ、実は災害そのものと同じくらい被災地に打撃を与えてしまいます。人や物流が止まってしまうということは、お金が動かなくなり、仕事がなくなり、被災者が職を失ってしまうからです。

「ボランティアに行った帰り道、ちょっと寄り道して温泉へ」「地域の特産品を購入して自分の地元で振る舞う」「被災地周辺のホテルで泊まる」「床屋を使う」「喫茶店でお茶を…」
そうです、経済復興を支えるボランティア。被災地周辺で被害が出ていない観光地に行くのも立派なボランティア活動なんですね。

7 活動報告



お疲れさまでした。
え!? また明日も?

- ボラパック・コーディネーターは、事務局に活動報告
- 引継ぎ、参加費納入



↑ ボラパック事務局へ報告

STEP6

活動の終わり時

…8月2日夜、アスト津の『みえ市民活動ボランティアセンター』にて



「ではボラパック事務局の今後の方針を決める会議を始めます」



「ボラパックは1回中止があったので、2回、のべ67名の参加があり、無事終了しました」



「現地ボランティアセンターでは、県外からの受け入れは今日で終了し、今後は地元での対応に切り替えていくそうです」



「じゃあ、もうボラパックも**出さなくてもいい**^{※1}ね」



「では、ボラパックとともに、事務局の閉鎖についても決めましょう。今後はHPの情報更新と、散発的な問い合わせへの対応があればいいと思います」



「支援してくれた人に対する**お礼とか会計の報告**^{※2}は必要なんじゃない？」



「でもお金を送ってくれた人は名前しかわからない人も多いよ」



「それなら**HPに名前を掲載**^{※3}して『ありがとうございました』でいいんじゃないかな」



「そうだね。他にも今回の**活動報告**^{※4}はあった方がいいんじゃないかな」



「ボラパックに参加してくれた人へのお礼状もできないかな？」



「そうだね。お礼状の中に『次の災害時にもご案内させていただきます』とか断りを入れておけば、またこの名簿の人たちにも連絡できるしね」



「では、お礼状やHPへの掲載、会計報告をすることは決定でいいですね。また、活動報告については別途プロジェクトチームを組んで考えましょう」



「事務局にスタッフが詰めてもらうのも、もう今日まででいいんじゃない？問い合わせもほとんどないだろうし、今日で事務局閉じませんか」

(一同) 「異議なし」



「では今日この時間でボラパック事務局は閉鎖となります。みなさんお疲れ様でした!!」

(一同) 「お疲れ様でした!!」



翌朝、アスト津『みえ市民活動ボランティアセンター』にて…

「あれ？事務局が無くなっているし、誰もいない!!
何で~!?^{※5}」

※1

現地ボランティアセンターと綿密に連絡を取り合いながら、終了時期を決めてください。このとき、現地の方針が変わることもあります。変化があったら臨機応変に対応してあげてください。

※2

たくさんの方の善意がどのような形で活用されたのか、ちゃんと公開するのはボラパックを企画する上で最低条件です。決算書のような難しいものは必要ありません。収支がどうなっているかわかりやすく公開してください。

※3

一般に公開する場合、住所など個人のプライバシーに関わる情報は掲載しないよう注意してください。

※4

せっかくいい活動を行っても形に残さなければノウハウがなくなってしまいます。自分たちがふりかえるためにも何らかの形で残すことをおすすめします。このマニュアルもそのためにできました。

※5

活動が終了したことはマスコミやHPを通じて情報発信するだけでなく、スタッフへの周知も決してお忘れなく…。



参加者の声から…

ボラパック参加者に感想アンケートを書いていただき、その内容を次の活動につなげていきます。その中から少し……

バスがあったから…

- 個人でも参加したかったのですが、かえって現地の方にご迷惑をかけてもすまないと思っていましたところ、このような恵まれた機会を頂き、感謝しております。
- 電車が不通になっており、自家用車も持っていないので、バスのおかげで参加することができてよかった。また、車中でみなさんの自己紹介や参加動機を聞いたり、帰りは感想を述べ合ったりと、ボランティア同士の連帯感も生まれ、楽しく参加できました。
- 今までボランティアセンターまで直接行く機会が多かったので、こういったやり方は正直驚いている。
- 自分で行くことを考えると、体力的にも楽です。
- 先日、水曜、木曜と自分一人でJRを使って海山ボランティアに参加しました。そのときはここまで来るだけでも大変でしたが、このようなボランティアバスがあると大変助かります。ありがとうございました。
- バスが利用できたのはありがたかった。個人で行くのであれば多分参加しなかったのではないかな。
- アクセス等を考えずに参加できるので、とても助かりました。
- 個々の車で行く駐車場の問題もあり、バスを出してもらうことにより、効率的で、非常にいいと思います。
- 遠方となるとやはり個人での参加は厳しいです。そこで、こうしたボランティアバックがあると一人でも参加しやすく、またすぐニーズに応えられて、よいと思います。平日、休日どちらも今後ともお願いしたいです。参加された皆さん、ボランティアバックのスタッフさん、お疲れ様でした。
- ボランティアバスのおかげで、初心者としては効率的にボランティアに取り組みたと思います。有意義に時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。
- こうした企画がないと、意欲はあってもどうやって参加してよいのか分かりません。その意味でよいと思います。あえて言うと、出発前あるいは車中でもよいので、現場の状況や心構え、地域の方との接し方など軽く説明いただくと、なおよい。
- Good!! バスが出ることで遠くの地域だけに行く決意を後押しされました。

事務局、広報、HP…

- 今回、目的も明確であり、ボランティアの人の装備も適切に準備されていました。ネットの情報が適切だったと思います。ただ、バスの中で現地の状況説明がもう少しあればと思いました。作業内容をネットで見てきましたので想像通りの作業でした。
- ホームページで集合場所の地図を載せていただいた方がわかりやすくなると思います。
- 予約受付をしていただいた方には2、3度予定を変えたにも関わらず、まったくいやな声一つ出されず、本当に感謝いたしております。
- 新聞にはときどきしか載ってないので、毎日出ているとは思わなかった。もっと宣伝してはどうですか？
- オリエンテーション等、連絡がわかりやすかったです。
- もっといろんな人にボランティアに参加してもらうように努力した方がよいと思いました。帰ったら今回の体験談などを職場で話したいです。
- 新聞の記事で知りました。電話の応対も気持ちよくて、案じながらの問合せでしたが、勇気が出ました。

参加費について

- 気持ちよく参加できた。1000円は少し高いかな？
- 1000円でここまでやってくれることは、ただ頭が下がる思いです。



STEP7

参加者の声から…



準備物について

- だろんこになつてしまつた私たちを帰りも乗せていただき、ありがとうございます。次回行くことがあるなら、ズボンも用意しておきます。
- きれいになつた体育館をあつにしたとき、参加してよかつたなと思つました。最初は一人で参加すること、初めて参加することが不安でしたが、ホームページの準備物のところが参考になりました。一人でも、別に参加してみればどうということもありませんでした。



増発を！

- バスの確保等大変でしょうが、もっと増発してください。
- 土日祝はもっと増発しては？
- 乗車場所を多くして欲しい。
- ボランティアバスが有効に活用されればますます多くの方が参加できるので、今後も便数を増発してください。
- バスが出ていなければ参加しようと思わなかつたかも。ありがたいし、満員で締め切るなら、台数を増やしては？とも感じる。
- 救援は早い方がいいと思われるので、交通手段のないところには、このようなバスの手配を県でしてほしい。（運転できないので）
- 長期的な計画で行ってもらえればもっと効果的になるのでは。



コーディネーターに感謝

- 私たちボランティアをコーディネートする人、本当に必要だと思つた。現地まで行つても路頭に迷うようではいけませんし、これからがんばつて欲しいと思う。今日はありがとうございます。
- ボランティアセンターの方、引率の方(ボラバック・コーディネーター)の努力なしには私のような個人がボランティアに参加するのはなかなか難しいです。
- 現地にてコーディネートofすばらしさに驚きました。それと何よりボランティアを志すみなさんの心意気がステキでした。
- 被災経験のない地域での連携は難しいのかなと思つました。その点から考えるとコーディネーターの仕事は重要であると思つました。
- 今回のコーディネーターの方の配慮は良かったと思う。一人で参加する場合、仕事かどのようになり振られるか、初めてだけ大丈夫かなど、心配な点が多くて参加を躊躇することも多いと思うが、今回のようにグループを作つてもらえつとわかつていれば参加しやすくなる。
- チームワークが良かったのでつつがなく進みましたが、ボランティア内の連絡網や情報交換など、目に見える形で共有できるものが必要だと感じました。
- コーディネーターの段取り8分の出来に非常にスムーズに気持ちよく実行できた。
- コーディネーターがしっかりしていたのでスムーズだった。
- コーディネーターやリーダー(班長)の方で雰囲気全然違うのだなあと思つしました。また、ホームページ等に「ボランティアをやつてみよう」というような初めての人もどんな活動があるのか、また、今回の活動内容を簡単でいいので、周知の意味でも掲載していただければと思つます。初めて参加するとき、ちょつと心強くなれるかもしれないです。



出会い

- はじめての参加でしたが、ボランティアってすごく簡単なことなんだなつて感じました。もっともつと難しいイメージを持つていたし、すごく大変なことなんじゃないかつて思つてましたから。「役に立ちたい!!」つて思つている人たつと一緒にいるのは、いい緊張感と刺激を受けました。さまざまな年代の方と接することができたのもよかつたです。
- 一緒に参加した友達と別々の班になつてちょつと寂しかつたです。
- 地域の人に感謝されるのもよかつたが、それ以上に志を同じくした人と出会えたのがよかつた。



コーディネータスタッフのついでに ボランティアバス

NPO法人ふくい災害ボランティアネット 松森和人

福井豪雨災害のときは本当にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

私は福井県水害ボランティア本部センター長という立場で、被災4地域に設置したボランティアセンターを統括していました。全国各地から集まるボランティアのパワーを、少しでも無駄にすることなく被災者のもとへ繋げ、ボランティアが安全に安心して活動できる環境をつくる。これが私たちボランティアセンターを運営する側の目的であり、課せられた責務と受け止め活動しました。

1日に2,000人を超えるボランティアのコーディネータは大変な混乱を招きます。大型バスが次から次へと到着する。そして人がセンター内外に溢れ、本来のセンター機能が停滞してしまう。それがパニックに拍車をかけるという悪循環を発生させます。その悪循環の影響は、被災者へ直結しています。復旧が遅れてしまうのです。

その点でいうと、コーディネータがついでにボランティアバスは、凄く被災地ボランティアセンターにとって有難いシステムでした。まず、センターに着いても必要な人員しか降りないので混乱しない。名簿があるので受付が早く混乱しない。安全への注意や心構えなどのオリエンテーションは済んでいる。そのまま現地への移動も出来る。人員把握が確実に行ってもらえる。バスでの乗り合いなので、交通渋滞などへの影響が少ない。そのお陰で、災害復旧用工事車輛の通行効率が上がり、復旧速度を向上させる。交通問題は、かなりの影響を与えますから。

これらの事は、センターを運営する側にとって、どれ程助かるか知れません。本当に被災地に負担をかけない、やさしいシステムだと思います。ある新聞のコラムに、「ボラバスに並ぶ人を見て、ボランティアとしての主体性が無くなる危険性がある」と書いている記事を目にしたことがあります。しかし私は、ボラバスに並ぶことから既に被災地への支援が始まっていると思います。



●あとがき

三重発！

毎日、ボランティアパックの無事な帰りを待って、ボラパック・コーディネーターの報告を聞いて、一緒についてきた若いボランティアの興奮さめやらぬ感動体験に盛り上がって、ボランティア情報センターの一日は終わるのでした。

人が人をつないでモノが届き、人が届き、資金が届き、情報が届く。普段は何でもないつながりが、災害の時には結集されて馬鹿力が発揮されました。いつも思うのですが、こんなとき、三重に住んでほんとに良かったと思うのです。この体験が、つぎのもしもの時に生かされるよう、この冊子を使っていたきたいと思います。忘れてはいけないあのとときの記録です。

(台風21号三重災害救援) 三重県ボランティア情報センター長 だつた 出丸朝代



発行 みえ災害ボランティア支援センター
編集 「みえ発！災害ボラパック」制作プロジェクト

<http://www.v-bosaimie.jp/mvic-center@v-bosaimie.jp>

第2版:発行 2011年5月

この冊子は2004年に編集したものです



みえ災害ボランティア支援センターは災害に取り組むNPO・民間団体と行政の各関係機関が協働で被災者の支援を行う三重県独自の仕組みです。阪神・淡路大震災、ナホトカ号重油流出事故、東海豪雨等の災害時の経験やノウハウを共有するために、普段から関係団体が十分に意見交換をしています。災害時には「みえ市民活動ボランティアセンター（アスト津3階）」に集合して、被災地のニーズにあった支援を考えて、実行します。災害がおこっていない時点から話し合いを継続していくことは、官民双方にとって負担もありますが、普段から話し合いを通じて各団体が信頼で結ばれているからこそ、いざという時には実行力を発揮できるのです。

主要構成団体

- 特定非営利活動法人みえ防災市民会議
- 特定非営利活動法人みえNPOセンター
- 三重県ボランティア連絡協議会
- 日本赤十字社三重県支部
- 社会福祉法人三重県社会福祉協議会
- 三重県「防災対策室、男女共同参画・NPO室、社会福祉室」